

令和5年度予算審査特別委員会第2分科会（産業環境所管事項）－02月24日

◆西 委員 お疲れさまです。創志会の西でございます。分科会の質問をさせていただきたいと思います。

7款商工費、1項商工費、3目観光費に関連してお尋ねをしたいと思います。この観光企画事業のうち、大阪観光局への負担金が令和4年度予算から倍増ということで、4,000万から8,000万に増額をされて提案をされているということになっています。これがなぜ増額に至ったかということをお聞きをしたいわけでありますけれども、この経過についてお示してください。

（西川良平副会長、的場会長に替わり会長席に着く）

◎北野 観光企画課長 令和2年度から大阪観光局に参画し、4,000万円を負担しております。参画の際には、令和3年度以降の負担金につきましては、本市の観光施策のさらなる見直し、精査により負担金額を決定する旨を議会においてお答えをいたしました。

しかしながら、令和3年度、4年度はコロナによる観光関連事業の停滞に加え、本市の財政危機宣言の集中改革期間であり、負担金は据置きつつ、その間も常に観光関連事業の精査を続けてきました。

こういった状況の中でも、強力な発信力と多種多様なネットワークを有する大阪観光局が堺への観光誘客に資するPR等に継続的に取り組むことは、本市が独自に実施するよりも効果的であり、年々、取組の内容も充実しており、ウィズコロナ、アフターコロナに向け、実際の誘客への効果が期待できるものです。そういった観点から、大阪・関西万博に向けて、具体的な取組を推進するため、観光関係団体の役割分担を見直し、観光関連予算全体を再配分したものでございます。大阪観光局への負担金増額もその1つであり、これまでの情報発信に加えまして、実際に本市への誘客を進めるためのものとなっております。

本市への誘客促進により、来訪者数や宿泊者数を伸ばし、観光消費額単価を上げることで、本市の観光消費額全体を向上させ、観光面での地域経済活性化を図ります。以上でございます。

◆西 委員 本市への観光消費額全体を向上させ、観光面での地域経済活性化を図る、当然のことです。これについては、強力に賛意を示したいところでもありますけれども、強力な発信力と多種多様なネットワークを有する大阪観光局が堺への観光誘客に資するPR等に継続的に取り組むことが重要であると、当たり前なんです。我々大阪府民ですから。これは大阪府に頑張ってもらわなくちゃいけないですね。府民税も払ってますからね。政令指定都市と一般市では2%の違いはあるかもしれませんが、基本的には府民税を納めているということをお前提にしておきたいというふうに思うわけです。そういった意味で

は、まず大阪観光局は大阪全体のために頑張られるわけですから、それは当然、府民税から賄われるのが基本的なところであります。基本的にそこは共有しなきゃいけない部分だと思っています。しかしながら、この中で、堺のために普通にやるよりも、堺のために取り組んでくれるのであれば、それは状況は変わってくるというところでもあります。

だから、皆さんのおっしゃってることは、すばらしい、セブンイレブンに入ったからいいですよ、商品が入ったからいいですよということをずっとおっしゃってるわけですけども、その中で、堺にとって利点を利かせてもらうことがなければ、なぜ市民税から、もしくは堺の財政から持ち出していかなくちゃいけないのかということが分からない、そのところが今の御答弁の中ではまだまだ見えてこないわけでありましてけれども、ではお聞きをしたいわけでありまして、この堺市が大阪観光局に毎年支出してきた4,000万円で、じゃあ、堺のために、普通に33分の1のまちではなく、市町村ではなく、もしくは人口880万人のうちの約1割いる、この1割部分だけ頑張ってもらっただけじゃなくて、もっともっと、堺のために何をどのような取組を行ってきたのか、そこをお示しをいただきたいと思っております。

◎北野 観光企画課長 令和2年度の大阪観光局への参画直後からコロナの影響を受け、実際に本市へ来訪していただく取組は難しく、観光需要の回復期を見据えた情報発信が中心となってまいりました。

令和2年度には、観光案内所における古墳PRや、本市の抹茶体験、刃物研ぎ体験等の商品を予約サイトにおいて販売を始めました。

令和3年度には、大阪いらっしやいキャンペーン特設サイトでの堺特集の掲載や、首都圏での事業者向け説明会、大阪での大規模展示会における観光情報の紹介、海外からの教育旅行誘致に向けた周遊コースの造成や、専用サイトでの情報発信に加え、これまでの難波観光案内所でのPRから新大阪、梅田を含む大阪市内3か所での観光PRに拡充し、またコロナにより中止となったものの、バドミントンの世界大会も誘致しました。

令和4年度には令和3年度に引き続き、大阪いらっしやいキャンペーン2022特設サイトに堺特集を拡大して掲載しました。また、首都圏での大規模展示会に出展し、観光情報を紹介したほか、大阪市内3か所の観光案内所での観光PRに加えまして、世界遺産登録3周年のPRイベントの実施、さらに大阪観光局で作成しました古墳VRの体験を難波観光案内所で実施しました。あわせて、大阪市内のホテルが実施している宿泊客等への魅力発見講座で堺のPRを実施しているほか、実際に留学生が堺を訪れ、お茶を体験するイベントを開催しました。

また、現在は海外富裕層向けのモデルコース造成や、本市へのMICE誘致に向けた協議を行っております。以上でございます。

◆西 委員 大阪観光局としては、いろいろ頑張ってくれてるということを今御答弁をいただいたということだと思っておりますが、先ほど来申し上げているのは、堺市は大阪府に入って

るわけですから、大阪全体の人口の約10分の1のキャンペーンや、人口で見たとき、堺は10分の1なわけですから、大阪全体で見たときに10回に1回は堺の特集を取り上げてもらうのは、当たり前のことですし、もしくは様々な発信をする、大阪観光案内所でPRをしていくのも、10回に1回は堺のPRをしてもらうのは当たり前のことなんです、堺市民から見たらですよ、市役所の皆さんからしたら違うかもしれませんが、我々880万人分の約1割の人口いるわけですから、10回に1回は堺の発信をしてもらうのは当たり前のことだと思います。

それ以上に、どのように堺のことを強調してもらえるかという観点が大事なんだと思います。それが堺がわざわざお金を出してるということの意義だと思いますが。

では、普通にやって効果があることではなくて、堺のためにどのように具体的な効果があったかということについて、今御答弁をした取組に対して効果をお示しをいただけますでしょうか。

◎北野 観光企画課長 具体的な効果としては、本市の観光PRを実施した大阪市内の3つの観光案内所の来訪者数が今年度4月から12月で約20万人となっているほか、海外からの教育旅行専用サイトは年間10万ページビューを超え、首都圏で参加したツーリズムEXPOジャパンでも来場者が10万人を超えるなど、情報発信効果は非常に高くなっております。

しかしながら、コロナによる人流抑制等によりまして、実際に来訪につながった効果を具体的にお示しすることは難しい状況であり、この間は本市の魅力発信だけでなく、海外富裕層向けのモデルコース造成や、MICE誘致の準備等、観光需要の回復期に向けた取組も積極的に行ってまいりました。

こういった取組により、大阪観光局の中でも本市に対する意識が向上し、広く情報を発信する手法だけでなく、観光案内所でのPRの拡充、古墳VR作成等の独自の取組に広がり、令和4年度は具体的に留学生を本市に招き、茶の湯文化を体験いただく取組にまで拡大してきたものと考えております。

また現在では、事業の企画段階から堺市を活用しようと相談を受けることも増えており、継続的に取り組んできた効果が出てきているものと考えております。以上でございます。

◆西 委員 まず、確認をしたいんですけど、人流抑制等により実際に来訪につながった効果を具体的にお示しすることは難しい状況でありと、そうですね、コロナで難しいんです。では、4,000万使ってないのかと言われれば、使ってますよね。

◎北野 観光企画課長 実際に負担金として支出しております。

◆西 委員 市民から見たら使ってるわけですよ。だから、このことを理由にあんまり強

調されるのはいかがなものかというふうに思います。この4,000万を使って、どのように効果があったかということ議論したいわけでありますけれども、今御答弁をされたことの多くは、先ほど来申し上げてるように、10分の1以上の効果があったかどうかということが分からないんです。繰り返しますが、我々は府民ですから、府民としての一定の割合の効果は当然府民税を払っている以上、市民から見たらあって当たり前なんです。そうじゃなくて、堺市が負担をしたからには、10分の1を、これ10分の1と見るか33分の1と見るか、もしくは生産高で見ると、いろいろありますけれども、府民としての当たり前の割合以上の効果をどう果たしてもらったかということをお聞きをしたいと思いますわけであります。

ただ、今の御答弁の中では、大阪観光局が頑張ったことの多くをお話をされていて、その中で、茶の湯の体験いただく取組は、確かに堺独自の取組かもしれませんが、ただ、これは当然、堺のことをPRしようとするれば、大阪観光局の、その10分の1なり、33分の1の中であるのかもしれません。わざわざ堺が負担をしたことによって、普通以上に取組んだことっていうのを、具体的にどのように答弁されるかっていうことをお聞きをしたいわけであります。御答弁できますか。

◎高屋敷 観光部長 委員おっしゃるように、大阪府内の市町村の一部と言え、そうなるかもしれません。ただ、堺市が加盟したことによりまして、実際に堺市を対象とした、先ほど課長のほうが答弁しました海外富裕層向けのモデルコース造成、これなんかは堺市からスタートしようということで、大阪観光局さんからもお声がけをいただいたり、実際、平場で議員さんともお話をさせていただいたときに、3年前、令和2年に観光局に入ったときというのは、やっぱり33の1つという感じだったんですけども、私どもも、事あるごとに大阪観光局のほうに向かいまして、向こうの常務さんとも話をさせていただきました。それと、様々な担当の方いらっしゃいますけれども、その都度、その担当の方を御紹介いただいて、その後、うちの担当者のほうも向こうに足を運んで、そういう取組を続けたことで、先ほど課長答弁したような事業が拡大してきているという状況であると思いますので、私といたしましては、負担しております4,000万以上の効果は取れておるといふふうに思っております。以上です。

◆西 委員 部長が日参をしていただいて、大阪観光局の中で高屋敷という名前が広がっていると、これは本当に部長の御尽力のたまものだと思います。ただ、それが4,000万出したからじゃなくて、やっぱり部長が頑張ってくれたからじゃないかと我々は思うわけですね。ただ、その中で4,000万を出した意義というのが何なのかということをお聞きをしたいわけであります。まあ、なかなか、確におっしゃるとおり、観光客がなかなか来てませんから、それはコロナが原因ですけれども、そういう意味では、なかなか計りにくいのは承知の上ではありますが、理解できる場所ではありますけれども、例えば、大阪観光局

が非常に、1回目の答弁でいただいたように、非常な外部とのネットワークも含めてあるのであれば、大阪観光局ということがすごい価値、ブランドなのであれば、そのホームページに流入してから堺に来てくれた、大阪観光局のホームページがきっかけになって、堺のホームページを見てくれるようになった、そういうところは大阪観光局に入ったからこそできる価値だったり、指標だったりするんじゃないかなというふうに思うわけでありますけれども、そういう調査、大阪観光局に入ったから、普通に堺単独でやるよりも、堺にもっともっといっぱい、おこぼれというか、いろんなものが飛んできましたよということと言える指標というのは、調査をされてるかということが一番気になるわけですけど、されてますか。

◎北野 観光企画課長 観光コンベンション協会へのホームページについてですね、大阪観光局から流入したというところの数字につきましては、つかめるようになっておりまして、すみません、ちょっとはつきりした数字はあれなんですけど、約10%程度ということであったかと思います。すみません。

◆西 委員 この間まで、それはなかったとおっしゃってたんですけど、まあ、急にあったということなんですけど、あの議論の中で調べていただいたというふうに理解をしたいわけではありますが、なかなか、大阪観光局があったからこそ、堺に入れるもの、そうじゃなくて、従来の形だったらこれぐらいしか堺に入ってこなかった、観光客や情報発信やということがなかなか見えてこないわけであります。

その中で8,000万円へ倍増された理由についてお示しをいただけますでしょうか。

◎北野 観光企画課長 大阪・関西万博での堺への誘客の最大化及びKPIの達成に向け、令和5年度を観光リスタートと位置づけ、観光部を含む観光関係団体の役割分担を見直しました。役割分担では、大阪観光局とKIX泉州ツーリズムビューローは国内外からの誘客、堺観光コンベンション協会は地域に根差した取組、観光部は全体のコーディネートやマネジメントと、それぞれの特性を生かした事業に注力し、誘客を加速させます。

大阪観光局については、令和5年度からこれまでの情報発信に加え、現在準備を進めているスポーツ施設、文化施設と連携した計画的なMICE誘致の促進や、海外富裕層向けのモデルコース造成による誘客を促進します。

さらに、本市を府域周遊の重点エリアと位置づけ、サイクルシティ堺の認知拡大に向けた情報発信や周遊促進の取組、堺の伝統産業をテーマとした若手料理人コンテストの誘致に向けた連携、大阪観光局アプリを活用した誘客や茶の湯文化等の社会の魅力発信による周遊促進等の取組を実施を予定しております。

令和4年10月には、コロナの水際対策が緩和され、外国人旅行客の入国解禁や上限が撤廃され、今がまさに観光の反転攻勢期であり、G7大阪・堺貿易大臣会合や、大阪・関西万博などの好機を逃すことなく、効果を最大化するため、それぞれの役割分担に基づき、大阪

観光局の負担金を増額したものでございます。

引き続き、大阪観光局との連携を密にし、強力な発信力や多種多様なネットワークを活用した取組により、誘客を加速させます。以上でございます。

◆西 委員 繰り返しになりますから、あまり繰り返しませんけど、今の御答弁、ほとんど大阪観光局が御答弁されてるんだっただら分かるんです。その中で、堺がどれだけ分捕ってきますか、言葉悪いですけど、どれだけ堺の割合を上げていきますかということをおっしゃる方がちゃんと御説明していただかないと、4,000万から8,000万に上げる意味が分からない。8,000万に上げたらこれぐらい堺に取ってこれるんです。その定量的な話をしっかりしてもらわないと、大阪観光局は大阪全体の観光客を増やすのは彼らのミッションですよ。そうじゃなくて、その中で堺にどれぐらいの割合を取ってくるんだと、その話がないと8,000万円に増額するということが全然分からない、その8,000万円でのどのような効果が得られるのかについてお示してください。

◎北野 観光企画課長 令和5年度の観光関連予算の再配分に際しては、イベントの廃止や回数を削減し、民間事業者との連携による効果的・効率的な実施といった観点から事業の見直し、精査を行い、限られた財源の中で最大の効果となるよう予算を組んだものです。

国内外からの誘客、地域に根差した取組、そしてコーディネートとマネジメント、それぞれの団体が自らの役割の下、強みを生かした事業に注力することで、より一層効果が高まると考えており、それぞれの役割が重要となってきます。

そういった観点から、ウィズコロナ、アフターコロナに向けて、大阪観光局には情報発信だけでなく、実際に本市に訪訪していただく誘客の具体的な取組を進めることが重要となってきます。そのため、観光部の役割であるコーディネートとマネジメントにより、具体的な取組を強力に進めていきます。

あわせて、トップレベルでの連携強化として、評議員に副市長、理事に文化観光局長が就任する予定であり、これまで以上に協議する場において本市の意向を大阪観光局の事業に反映します。

堺市観光部、大阪観光局、KIX泉州ツーリズムビューロー、堺観光コンベンション協会が強みを生かした事業に注力し、全体効果として観光消費の増加による地域経済の活性化をめざし、来訪者数、宿泊者数のKPIの達成、また観光消費額単価も増加させ、令和7年度には約373億円の観光消費額の増加をめざしてまいります。以上でございます。

◆西 委員 最後に数字が出てきました。373億円の観光消費額の増加、ぜひこれは頑張っていたいただきたいというふうに思っています。ただ、これが堺から見たときに、大阪観光局としての取組だけではなくて、様々な取組を合わせてという数字だと思いますけれども、これはこれでぜひ頑張っていたいただきたいというふうに思いますが、適正な堺の観光の支出の

中で、適正な配分を考えていくためには、大阪観光局経由だとこれぐらいの効果が得れそう、コンベンション経由ではこれぐらいの効果が得れそう、このやり方ではこういう効果が得れそう、そういう定量的な調査がないと、適正な配分、なかなか考えづらいというふうに思うんですね。それは皆さんの頭の中にあるのかもしれないけれども、結局、議論していても、答弁をいただいても出てこない。それでは我々は分からないわけですね。4,000万から8,000万を増やせば、これぐらい適正バランスとして変わるんですという話がないと、Aというコンビニチェーンに入れるより、Bというコンビニチェーンに入れる、Cというコンビニ、これぐらい、どれぐらいエネルギーをかけることによって、商品の売上げは変わります。売れ数が変わります。そういう話があって初めてエネルギーの資源配分変わるはずなんですけど、皆さんの話では、いや、こういうコンビニチェーンに入ったら売上げ上がると思います。それ以上の根拠がないんです。あるのかもしれませんが。御答弁の中にはない。そこがしっかりと調査をするべきだと思いますし、それが観光客が増えてなかりょうが、観光客がたまたまコロナで入ってこなかりょうが、皆さんの中では様々な調査手法はあるべきだと。それで、それはまさに、局長は前の広報のところでそれをしっかりやられてたはずなわけですから、サンプル調査もしっかり生かしながら、観光局に入ることによって、堺でどれぐらい効果があるのか、インパクトがあるのか、10分の1以上のインパクトがどうやって入れるのか。そのところをしっかりとデータを収集をしていただいて、考えていただく。それプラス、今の御答弁の中では、意思決定に参加ができることが4,000万から8,000万に上がることによるメリットなのかなというふうにも思ったりする御答弁もありましたけれども、それは4,000万でもぜひ参加をしていただきたかったし、それは常に意思決定に、堺がお金を出すからには意思決定に参画をする、その姿勢でぜひともよろしくお願ひ申し上げたいと思います。

最後に、市町村の数が、私33と言いましたが、43だと、今、淵上委員から怒られましたので、おわびをして、修正をして私の質問を終わります。ありがとうございます。

◎北野 観光企画課長 すみません、先ほど大阪観光局から観光へのアクセスにつきまして10%と申し上げましたが、申し訳ございません、10位という、順番で言いますと10位という数字をつかんでおります。それをちょっとすみません、10%と間違ってお答えをさせていただきました。以上でございます。

◆西 委員 それは全く議論の趣旨が変わってくるので、それはまた、次回でもやりますけれども、大阪観光局に入ることによっての堺のメリットというのは何なのかということも議論しています。それが10位ということは、全く趣旨が違います。そのところは改めて申し上げて、私の質問を終わります。ありがとうございます。